

# 煙樹ヶ浜の壮観、美しい浜が魅せる町。

和歌山県のほぼ中央部、日高川河口右岸から海岸線に沿って展開する美浜町は、県内で太地町に次いで面積が小さい町です。北は日高町、東は御坊市に接し、南は黒潮踊る太平洋に、西は紀伊水道を隔て、四国徳島を望む瀬戸内海の南の入口となっています。漁業が盛んで、この地で行われる地曳網漁では、シラスなどが水揚げされます。

太平洋に面する砂州海岸には、日本有数の松林「煙樹ヶ浜」があり、大正末期にこの地を訪れた近藤浩二路（こんどうこうじちろ）画伯が「雲煙模糊（うんえんもこ）たる長い浜と青松の景観を見て、この名前をつけた」といわれています。

この浜には、休日ともなると多くの釣り客やハイキングの家族連れが訪れ、人々の憩いの場となっています。



# おーじとすくとたなっちの あの町この村ぶらり旅

Vol.05 美浜町特集



御坊ICから  
日の岬パークまで車で  
約36分といったところじゃ。  
ほぼ1本道じゃから、  
迷うこともないぞえ!

### 美浜町へのアクセス

#### 車の場合

「大阪・名古屋・京都方面から」  
松原JCT  
阪和自動車道 和歌山方面  
↓和歌山IC(約50分) ↓御坊IC(約30分)  
↓国道26号を西進  
↓高野街道(国道42号)  
↓美浜町(約20分)

#### 電車の場合

JR新大阪駅から、JRきのくに線特急「オーシャンアロー」スーパー約75分。  
御坊南海バス(日の岬パーク行き)で、日の岬パークまで約30分。



### 神秘の花、大賀蓮を愛でる。

毎年7月上旬、町内の三尾大賀池で行われる「大賀ハス観蓮会」では、ハスの葉でお酒を飲む象鼻杯(ぞうびはい)や、町民による催しなどで観光客を魅せます。

昭和26年、ハス研究の権威である大賀一郎博士が千葉県で日本最古(約二千年前)のハスの実を発見しました。中国やアメリカなど、日本でも数十カ所に分根移植された大賀蓮が美浜町にも根づいています。

毎年夏になると、町の花であるひまわりが、庭先や校庭、公園など、町内のいたる所で見られ、太陽に向かってまわりを、町ぐるみで大事に育てています。



### 元氣いっぱい、乱舞する夏の花。

紀南地方きつての賑やかな祭りである「御坊祭り」は、毎年10月の4・5日に御坊市の小竹(しの)八幡神社で行われます。規模も大きく、毎年多くの見物客で賑わいを見せる紀南の祭りの代表です。

美浜町からは浜ノ瀬地区が氏子として参加し、奴踊り獅子舞、四ツ太鼓などを奉納します。



人を見たけりや御坊祭において。

そして12月中旬には「火焚祭」が行われます。昔々、村人たちは大雪が続く凶作で悩んでいました。ある者が年貢の軽減を藩に嘆願し、残った村人たちが鹿ヶ背で火を焚いて彼らを出迎えた...という話を記念して行われるようになったといわれています。

その雪にちなんで白粉餅を供え、訪れた人にふるまひ、獅子舞も華麗に舞う真冬の祭りのです。



## 御崎神社のお祭り

御崎神社では、毎年10月4日(曜日)に「和田祭」が行われます。

籠(かご)を持った王仁(わに)に獅子(しし)が鳴物(なげもの)で舞う獅子舞(しし舞)が有名。また、こどもたちが奏でる笛(ふエ)や太鼓(たいこ)の囃子(はやし)にのせて山車(やまぐるま)を曳(ひ)き、賑わっています。



豊穰を祈願する、勇敢な吉原祭。

毎年10月中旬に行われる吉原王子神社の秋の例祭。町内の4地区からなる獅子舞や四ツ太鼓など、本祭の浜までの御渡行(ごときょう)が見どころ。祭りの1カ月前頃に各地域の若衆が練習を始めること、次第にお祭りムードが高まります。



平成24年9月に開催された「第1回 煙樹ヶ浜フェスティバル」では、まつりによるジャンケン大会、ラムネ早飲み競争、お笑いライブやダンスパフォーマンスなどが催されたほか、地元特産品の模擬店や屋台なども出品され、多くの人で賑わいました。

### 煙樹ヶ浜フェスティバル

# 伝統の漁法、地びき網で 美浜町の朝が始まる。

和歌山県中部、日高郡の西端にある美浜町。紀伊水道と太平洋の合流海域で、好漁場に恵まれた煙樹ヶ浜沖では、昔からの伝統漁法である地びき網漁で、しらすの水揚げが盛んに行われています。この漁法は、かつて各地で行われていたそうですが、現在ではおそらこの浜でしか見られないといわれています。漁師の人たちは、朝の海を見て網をひくかひかないかを判断します。「天気が快晴だから大漁が期待できる」ともではなく、風、波の高さ、空の様子などから大漁の予感を感じるのでしよう。



### 美浜名物 新鮮シラス。

シラスは色々な魚の仔稚魚の総称ですが、美浜町のシラスはイワシの稚魚を指します。頭から骨まで食べられるので、カルシウムなどの成分がたくさん摂取できます。

半透明の透き通った体に日の光が反射してとてもきれいで、この日も10箱以上のシラスが水揚げされました。



1 沖合に網をセット、海鳥が魚を狙っています



2 青い機械が巻きあげ機、まだ網は見えない



3 最後は漁師さんたちの力で

この地びき網漁で使用する網の左右の長さ、数百メートルにおよびます。浜から約1キロメートル先の沖合に小舟で向かい、網を半円状にして海にセット。浜に戻り、網の端につけたロープを浜の巻きあげ機にセット。約2時間後、2つの巻きあげ機を同時に可動させて魚が入った網を水際まで巻きあげた後に、漁師の人たちが、かけ声を合わせて浜にひきあげます。



## 地びき網の中には 美味しい海の幸。

網がひきあげられ、漁師さんたちが魚の仕分けを始めました。網の中には、シラスや魚がドッサリ。海鳥たちがおこぼれを頂戴しにどんどん集まっています。大漁なのかと思いきや、漁師さんたちは「昔はもっとたくさん揚がったんやけど、年々減ってきてるよ」と嘆きます。

私たちが訪れた1月の町では、カツオやタイ、スズキやサワラなどのお魚が水揚げされていました。そして煙樹ヶ浜を眺めながらの最高のロケーションの中、漁師のおいさまにいただいたタイを捌いて食べてみます。タイの新鮮の歯ごたえ。そして濃厚な旨味と甘さが口いっぱいには広がるのです。新鮮な海の幸に、大興奮の3人で



釜揚げシラスの加工場におじゃましました。シラスは塩茹でして加工されますが、水分量の違いで名称が変わるのをご存じでしょうか。水切りした、85%程度の水分量の多いものを釜揚げシラス、50〜60%程度に乾燥したものをシラス干し、25〜30%程度まで乾燥させたものをちりめんというんだって。

美浜町の釜揚げシラスは、煙樹ヶ浜で生きたまま水揚げされたものを15分以内にポイルするから、鮮度が良くコンシが非常に美味。主に関西圏へ出荷され珍重されています。見学させてもらっていたらお腹空いてきちゃいました…。

- 1 捕れたばかりのシラスを水洗い。
- 2 大釜で8〜12分ポイルします。
- 3 冷却コンベヤーでクールダウン。
- 4 手作業で詰めていきます。
- 5 釜揚げシラスの完成!

### 美浜町名物 シラスメニュー

#### シラスパン

プレーンのパン(右)と、チーズ味のパン(左)。食べるとしっとりシラスの風味がして、おかずパンとして、とてもレベルの高い逸品。

#### しらす御膳

シラス丼とシラスのかき揚げがセットになった御膳。丼には柴漬けとゴマと大葉、そしてこんもり盛られたシラスのうえに温泉卵がドン! 豪快にまぜて食べると…美味し〜!

詳しくは美浜町役場へお問い合わせを!

# 煙樹ヶ浜の松林に抱かれた美浜町。



西山ピクニック緑地公園から見た煙樹ヶ浜

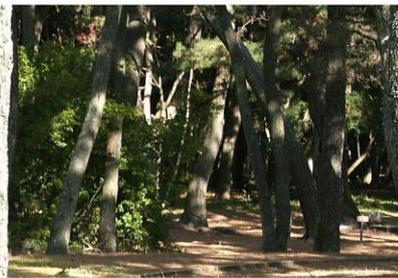
## 松葉を堆肥に再利用した、美浜の『松キユウリ』。



平成19年の秋から煙樹ヶ浜松林の松葉（落ち葉）を利用した松葉堆肥で「松キユウリ」を栽培しています。「松葉もたくさん取れるものではないから、松キユウリもたくさん生産はできないですよ」と農家の方が教えてくださいました。松葉をかいて整備をすると、松林が美しく元気になる。その松葉を堆肥に再利用して地域の特産品であるキユウリの栽培に活用する。特産品に付加価値がついたら町のPRにもなり、農業の振興にも繋がる。美浜町は未来を見据え、そんな循環型の地域農業を目指しています。



煙樹ヶ浜松林イメージキャラクター  
**まつりん**  
**らぼっくりん**



「白砂青松（はくしゃせいしょう）」。美しい海岸の景色を表すこの言葉がふさわしい煙樹ヶ浜とその背景に広がる松林は、町民の自慢。この松林は、紀州初代藩主徳川頼宣（よりのぶ）公が、日高平野を潮害や風害から守るために伐採を禁止し、保護した経緯を持ち、この地の人々のためめめ努力により受け継がれてきた。幅は最大で約500メートル、長さは4.6キロメートルにもおよび、近畿最大の規模。台風や津波など、海に関する災害を防ぐ役割を担い、地域の防災資源として高く評価されています。特に和歌山は地震が起りやすく、海側の町は津波の被害が出やすい地域でもあります。そんな有事に備え、人の手でしっかりと松林を守り、整備し、強い松林に育てています。歴史に培われた松林は、防風林、防潮林として日高地方全域を守っているのです。町では、2月第2日曜を「松の日」と定め、町民がボランティアで清掃活動や草刈り作業などを行います。町をあげて松林を守る取り組みが続けられているんです。



さっそく、松キユウリに金山寺味噌をたっぷり盛っていただいています。お野菜でもお魚でも、採れたてで新鮮な内に生でいただくのが一番美味しく、贅沢な食べ方ですよ！



シャキシャキの歯ごたえもたまらうん美味しいわあ



## 夏は煙樹ヶ浜でキャンプを楽しもう！

「煙樹ヶ浜海岸キャンプ場」は、煙樹ヶ浜海岸沿いにあります。このキャンプ場は、GWや夏休み期間にオープン。炊事棟、管理棟、シャワールーム、トイレなども完備しているから、ファミリーでも安心してキャンプを楽しんでいただけます。キャンプ場の近くには木漏れ日が降り注ぐ松林のトンネルがサイクリングやウォーキングに、松林浴でリフレッシュしてみませんか？

## しずくの釣魂！ 美浜町編



海のオンナ、しずくちゃんよ！釣りのことならお任せあれ！この煙樹ヶ浜は最近人気のスポットで、休日になると多くの釣り客で賑わうわ。煙樹ヶ浜では、投げ釣りやマゴチ・カツオ・ヒラメ・グレ、カゴ釣りやルアーでは、青ものが釣れるのよ！ちなみに日高川河口ではチヌ・キス・スズキなどが釣れるみたいよ。あ、ただしこの浜は遊泳禁止だし潮が早いのでくれぐれも気をつけてね！



1 煙樹ヶ浜で釣りしているおじさまを発見。この浜では何が釣れるのかしら。

2 見てみい、今日はグレが釣れたで！ この日は悪候だったけど、立派なグレ！おじさま、やるわね…

3 わだしも何か大きい魚釣りだーい！ 流行の釣りガールや！ たなっちが無謀なことを言い出したわよ。やれやれ…

4 風が強いこんな日に釣れるはずがないわ…。釣り初心者のたなっちは撃沈ね！ えーん…さびいよう…

教訓：釣りは良いお天気の日を選んで計画的に楽しむべし！

## おーじくん、発見！



**うみねこ島**  
海から吹く風に乗って、春先になるとたくさんのうみねこがやって来ます。その季節になると島にうみねこが多くとまり、フンで真っ白になってしまふんだとか。



**潮吹岩**  
海水の浸食作用でできた岩で、満潮や高波の時に、鯨みたくにプシューっと海水が噴き出すんだって。ポクも見てみたいなあ…





## 遠い異国の思い出を抱く、三尾の風情ある町並み。

町を西進すると、三尾地区に辿り着きます。海側には、津波の高波・台風の暴風などを防ぐための高い防潮堤が築かれています。三尾地区は「アメリカ村」とも呼ばれ、明治・大正時代、カナダに多くの移住者を送りました。江戸末期から明治初期にかけて貧しかった漁村は、移住者からの送金でみるみる豊かになり、家屋・服装・食事は洋風化、日常言語は英語まじりというエキゾチックな村へと変貌を遂げました。町の変遷には「カナダ移民の父」と呼ばれる工野儀兵衛氏(くのぎへい)の存在が大きいといえます。明治21年、工野氏はカナダへ渡航し、バンクーバー郊外の漁村ステイブストン付近にあるフレザー川で行われていた鮭漁業に先見を見出し、三尾地区に住む家族や親戚、友人などをはじめ多くの移民をカナダへ招き入れました。一時期、ステイブストンの約4割が日系人、そのほとんどが旧三尾村出身者だった時もあったそうです。三尾地区の住民は、カナダを東京よりも近くに感じ、そして憧れ、学校を卒業したらカナダへ行くのが当たり前と思うようになっていきました。現在のアメリカ村に、当時のエキゾチックな風情を推し測ることはできませんが、漆喰の屋根が連なる古き良き漁村の町並みが残っています。

## 美浜町の神社



松原王子神社

松原王子神社の社叢は、数百年に渡り保護されてきた日高地方でも稀な天然林。暖地性のイヌマキやカコノキ、直径1メートルを超えるクスノキやウバメガシも生育。県の文化財に指定されています。



御崎(みさき)神社

日高地方で最も古く、三代実録に記述されている格式の高い神社。海路陸路の安全をお守りし、すべての万人万事を良い方向に導いてくれるといわれています。境内には、樹齢約千年の大きなウバメガシの樹が。また、春になるとキレイな桜を咲かせて花見客の目を楽しませます。



三尾龍王神社とアコウの樹

龍王神社の境内のほとんどを占めるこの巨樹は、亜熱帯植物のアコウという樹。クネクネしてて面白い形です！根元の周りは10メートル以上あり、推定樹齢は約350年くらいなんだって。

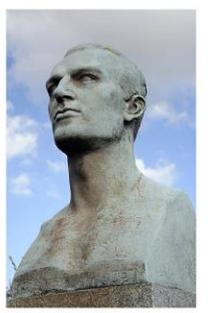


日の岬パーク内にある「アメリカ村資料館」には、カナダに移住していた人たちが当時使っていた思い出の品や写真、資料が展示してあるわ。当時流行っていた洋服かしら？コートや帽子がオシャレ、ほかに色々な展示しているの。当館の人の暮らしを感じてみて！



## 岬を照らす灯と、見守る海の勇者。

美浜町の最西端にある「煙樹海岸県立自然公園 日の岬パーク」。光達距離5キロメートルを誇る日の岬灯台は、紀伊半島で一番西に突き出た岬に位置します。日の岬パークには海を一望できる宿泊施設をはじめ、お食事処、アメリカ村資料館、平成22年に完成した風力発電、そして動物園などがあります。パーク内の小高い丘のうえで静かに海を望む胸像、彼はデンマーク船工レン・マースクという人物です。クヌッセンという人物です。昭和32年、クヌッセン機関長はエレン・マースク号で航海中、日の岬灯台西の沖合で火災を起こしている機帆船「高砂丸」の乗組員を救出しようとした。荒れ狂う海で命を落としました。日の岬パークは、自身の危険を顧みず高砂丸の乗組員を助けようとした海の勇者クヌッセン機関長の顕彰碑と胸像を建て、その冥福と航海の安全が祈り続けられています。夕日百景に選ばれた日の岬パークから見える、赤々と燃える太陽と、海面に反射する夕陽。さらめく美浜を象徴しているようです。美浜町の夕景に見送られ、3人の旅はまだまだ続きます。



ヨハネス・クヌッセン機関長

### 美浜町の宿紹介

この宿泊の際は、タウンカードを手にして、気をつけてお過ごしください。

旅館や民宿、ホテルなど、町内約4カ所の宿泊施設では、クエや伊勢エビなど、美浜町の海の幸が堪能できます。さらに夏期には町内各所のキャンプ場も開場します。詳しくは美浜町役場までお問い合わせ。

### 旅で出会ったおともだち

はじめまして！日の岬パークに住んでるやぎの **カンちゃん**だよ。僕はね、普段はパーク内の檻の中にいるんだ。え、やぎだから紙を食べるのかって?? もー、たべるわけないじゃん!!! 出来れば大好物のパンか、お野菜系希望だよ！日の岬パークに来た時には檻を覗きに来てね。絶対だよ。だって、さみしいんだもん。

ハナナ皮ごと食べてるカンちゃんワイワイ！

御礼 取材にご協力いただいた方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

©和歌山県町村会 本企画の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。本企画に掲載しているデータは2011年1月現在のものです。